

やりがいを感じなくても、仕事を続けるには

「仕事にやりがいが必要？」

Aさん やりがいは必要だよ。労働に合う「対価」を必ずしも得られるわけではないもん。ここで言う対価には、お金や社会的地位(昇進)のほか、「仕事の後のビールはうまい!」などの達成感も含んでいるよ。

対価がないと自分がする

仕事に対してつり合いが取れないと感じて、そっと辞めてしまう人も多んじゃないかな?そして、辞めた人の穴を会社は新たな人を雇って埋めていくということが繰り返されているのかもね。



「なんか、やりがいを感ない」

Bさん 仕事以外で充実していれば、仕事にやりがいなくても、それでいいかな。

Aさん 一日のうち、仕事にしばらく時間短くならないから、やりがいがいいとむなしくない?

Bさん たしかにやりがいを持ってるのが一番だけど、絶対でなくていいと思うな。

Cさん 最近、企業実習に参加するようになり、はじめはできなかったことができるようになったときは、達成感があり気分がよかったです。でも、さすがにお金が見合わない、嫌ですね。

「やりがいつて、お金や昇進、達成感などの対価より大切なのかな?」

Sさん やりがいを得ることが一番大事だと無意識に話してきたけど、やりがいはお金や昇進、達成感などと同じで、仕事から得られるもの一つとして並立の関係で考えるといいかもね。

「それでも、やりがいがないとダメなんだよ!という人もいたら?」

待てば海路の日よりあり?(ダメだと思ふ人の声) あんまり長く待てないよ!
(天の声) 待つことは現代人には、つらいことかもしれない。仮にあなたが、何かの「スープ」で、いま入っている「鍋(会社)」にモヤモヤすることがあるとします。そこであなたが他の鍋(会社)に移っても、モヤモヤの根本である「灰汁(あく)」(人間関係のしごらみなど)を取り除くことはできません。灰汁を除くには今いる鍋(会社)にもう少しいることが第一のステップ。煮詰まってくれば中心に灰汁(モヤモヤの正体)が集まってくるでしょう。これを取り除いてからもう一度、今の仕事を純粋な眼で見つめ、動くべき時なのか再検討してみると、見えなかったやりがいが見えてくるかも。

コラム「自問自答」 (筆者:賀藤 祥子)

最近、行動力が上がったような気がする。というのも、行きたいところに出出したり欲しいものを買ったりすることが一人で行けるようになった▼一人行動を本格的に始めたのはチャレジョブに入所する一ヶ月前のことだ。そのときはやることなく退屈だったので一人で地元のカフェや買い物に行った。集団で行動するよりもこのように一人で行動するのが楽しかった。それ以来、やや遠い場所にも行動範囲を広げられるようになった▼最初は一人で外出したい気持ちはありつつも心配されそうであきらめていた。だが、このままでは毎日が退屈でつまらなくなるので一歩踏み出して行動を起こした。このようにしたからこそ、自分を変えられた▼行動力が上がり一人行動ができるようになったのは、成長の証だった。入所した日が一ヶ月遅れてしまったが、それが行動力を上げる時間になった。

コラム「自問自答」 (筆者:みなと)

今月のテーマは「リセット」。「人間関係リセット症候群」というものを聞いたことがある。人間関係を突然断ち切ってしまうことを言うらしい▼私にその気はないのだが、いつも人間関係がリセットされてしまう。生まれてこの方地元に住んでいるのに、連絡を取り合っていない同級生は誰もいない。誰が結婚したなどを風の噂で聞く程度だ。地元ではない専門学校同級生などは完全に音信不通。決して友達がいなかったわけではないのに、卒業すればそれで終わりになってしまう▼それでも、今までは特に寂しいと感じたことはなかった。それが今になって無性に寂しさを感じるようになった。今どうしているだろうか、ふと考えてしまう。就労移行では利用者同士の連絡先の交換が禁止されている。仲良くしていても就職が決まれば別れは突然やってくる。就職は喜ばしいことなのだが、もう会えないという現実はとても寂しい。

私の資格ラボ

資格取得者に聞く!学習のポイント

校正技能検定の勉強で身についた意外な力

合格者Aさん ガーイーン!
研究員 どうしたの?

Aさん 校正技能検定(初級)に合格したんですが、手を見たら、ペンだこができてました…。

研究員 初級でペンだこって…こわっ。
Aさん 別に恐ろしくないですよ!この検定は、文章の誤字脱字や表記の誤りなどを直す校正という業務の検定試験なんです。初級、中級、上級があります。
研究員 出版関係への就職で役立ちそうな資格ですね。

Aさん そうなんです。初級は、特定の教育機関で指定単科目を修得すれば取れます。中級、上級はそれぞれ一つ前の級に合格していれば、受験できます。
研究員 指定単科目の修得で取れるならカンタンそうですね。でも、ペンだこができるほどじゃ、ないような。



日本エディタースクールが発行する校正技能検定のテキスト

Aさん ワナにひっかかりましたね。初級でも通信教育の場合、8ヶ月程度で厚いテキストを4冊、終わらせなければなりません。校正記号とか、日本語の歴史とか、英文の校正とか。添削課題も8回あり、毎回ヘビーでした。
研究員 えええ!ごめんない、全然カンタンじゃないですね!

Aさん だからワナだと言ったんですよ。1日数時間、しっかり勉強しなければ終わらない、集中力と持続力が欠かせられる資格でもあります。

研究員 そんな大変なのに、よく取得できましたね。すごいですよ。

Aさん (おっと、態度が変わったな)大変なときもありましたが、実はこの広報誌の校正をすることがモチベーションの維持になっていました。

研究員 そりゃペンだこできるよね。
Aさん 途中からペンだこがかわいくなってきた、むしろ育てていた感じですよ。主婦が台所の隅で豆苗(とうみょう)育てているみたいな感覚ですね。

研究員 (心の声…それなら校正よりも文章書く方が合っているのでは…)

Aさん 文章も書いていますよ。

研究員 エスパーかよ!
(筆者:結城 雪)

オフ・ビィ

手作りのココアシフォンケーキ。卵の白身とグラニュー糖で作るメレンゲや、卵の黄身とグラニュー糖、油、小麦粉、ココアパウダー、牛乳で作る生地をどこまでまぜるか、また焼き終えた後逆さにして冷ますなど、作るのにコツが多いです。ケーキの上に牛乳とチョコレートで作ったチョコレートトソースをかけると、チョコレート好きにぴったりのアレンジになりました。

(賀藤 祥子)

「チョコの味がしっかりしていて食感がふわふわだったよ!」



今月のおすすめ本【Book Review】

※読書好きメンバーによるおすすめ本の「書評」です

『52 ヘルツのクジラたち』

著者:町田 そのこ
出版社:中央公論新社(中公文庫)
発行日:2020年4月18日

【評者:A・Y】

タイトルの「52ヘルツ」とは、その周波数(しゅうはすう)で歌を歌うクジラのこと。同種のクジラたちにも聞こえない周波数で歌うクジラの世界とは……。主人公の貴瑚(きこ)が都会の修羅場(しゅらば)から最果ての街にたどり着き、「52」と出会い、自分を救ってくれた「アンさん」に重ね、「52」を救おうとして、自分に向き合う話です。無意識(むいしき)にさけている現実に真正面から向き合い、他人を理解することが自分自身を知ることに繋がっていきます。アンさんが伝えた「魂の番(つがい)」を「52」に伝えていく描写(びょうしゃ)は素敵な絆(きずな)のキーワードです。一読の価値があります。

マンガ『暇人(ひまんぢゅ)の腹の中』

※日常にひそむ疑問やイライラを独自の視点で受け流す!

【作者:HR】

夜中に大きな袋をかかえ家路をいそぐ、ある男。

1

父は走った。

2

愛い子どおのために。

3

まあ、今日はクリスマスイヴだしね

4

この時間ならいつもは家からしめ出す妻だが